

## 新刊ニュース

### \*西脇純「グレゴリオ聖歌研究」(3) 南山神学 34号

1, 2, 4があって3巻が抜けていましたのでお願いして送っていただきました。  
カロリング期の典礼改革の足取りが丁寧にたどられています。

### \*坂本日菜「In Nativitate Domini in Misam in Die」for Organ 私家版

委嘱により18世紀のイタリア式オルガンのために作曲され、築地カトリック教会で初演されています。全編にわたってグレゴリオ聖歌の旋律が聴こえるようになっています。

♪上記の2冊はグレゴリオの家・本科卒業生の労作です。どうか心にお留めください。

### \*Jehan.Alain 「Deux chorals pour orgue」Combre

I: Dorien, II: Phrygien となっています。大変に美しいのですが、それだけに彼が20代の若さで、戦争の銃弾に倒れたということが惜しくてなりません。

### \*Jean Langlais 「Vinght-quatre Pieces pour harmonium ou orgue」

cahier 1, Combre

手鍵盤だけで弾くための曲集です。最後の曲に Hommage a Fr.Landino とあるのが興味深いです。正しくは Francesco Landini ですが、イタリア・アルスノヴァ時代(14世紀)の盲目の作曲家、オルガン名手にしてオルガン製作者です。彼がオルガンを弾くと小鳥達が集まってきたと言われます。あたかも聖フランシスコの説教を聞くかのように。しかし盲目の人がオルガンを製作するということが私には驚異です。

### \*佐々木悠「日本人のオルガン作品」教文館

オルガン音楽というのは教会には欠かせないものですが、日本人によるオルガン作品の情報を収集し、作品の研究をしてこられた佐々木さんの著作です。キリスト教の典礼用作品に限らず、作品論も述べられ、日本人のオルガン作品目録も所収されています。

### \*聖書：原文校訂による口語訳 フランシスコ会聖書研究所

長年にわたって、聖書注解をしてきたフランシスコ会の研究所が全編を1冊にまとめて出版しました。注解が豊富なので今までも詩編や新約聖書に関しては分冊で参考になさっていた方々が多かったと思います。聖書は音楽に関する記述が大変多いのです。この新訳には従来の訳の様々な誤訳を正すという目的もありましたが、残念ながら楽器名については以前からヘブライ音楽学者によって指摘され続けてきた伝統的な誤訳(そしてありえない誤訳)は訂正されておられません。

杉本ゆり記